白　根　山（下　田）　山　行　記　録

登山口

この奥が山頂

狂い咲きイワウチワ

粟ケ岳

青里と矢筈

急傾斜を下る

目的地	白根山（下田）	期　日	平成１９年１１月３日（祝）
山行人	佐々木康男・フサ子・五十嵐隆・笠原正雄	特　記	数年前に登山道が整備された川内の入口の山。

地　点　名	(着）～（発)	天候	記　　　事
与　板　発	7:00	曇	見附でコンビニ。R289 大谷地から左折して林道親沢線へ。
林道途中 P	8:25～8:45		広場に先着箱バン一台。のち十数人の団体来る。露払いに恰好と思い、数分待って彼らに先行して貰う。もう一台来た。車道はすぐ先でバリケードが張ってあった。親沢の流れに沿う道。先行団体を追い越さぬようにゆっくり歩く。
登山道へ	9:05	曇	道標があり、左の山道に上がる。少し草がうるさい。支沢のヘツリ道。
支沢を渡る	9:20	〃	2～3m程の沢を飛び石で越える。トラロープが渡してある。ここから先は広い良く踏まれた道となる。
山　の　神	9:55～10:00	〃	団体が休む。その下で我々も休む。道も良いので団体を追い越す。杉の植林地となるが、まだ若年生である。
登路で休む	9:55～10:00	〃	登りが連続する途中。男２人と前後する。道脇にリンドウが咲く。
熊刈りの眺め場	10:10	〃	袴越と同じ道標。左の木々が切れ、頂を雲が覆う粟ケ岳が見える。下田の集落も見える。ここまで下ることの無い大半が登りの道である。
下りから鞍部	10:20	〃	眺め場から少し横移動して下る。鞍部はやや痩せている。急登が始まる。
前白根山	10:55	〃	展望の利く小ピーク。西から青空がこちらに向かってきた。
イワウチワ	11:10	〃	狂い咲きか、一株だけ咲いていた。雑木につかまりながらの急登となる。
白根山頂	11:15～12:50	曇～晴	Ｆと先に到着。数十人程度が座れるほどの広さ。箱バンの新潟からの夫婦がランチ中。団体が来る前にと場所を確保し、ＹとＴを待つ。先に途中で追い越した男２人が来た。４人揃ったところで乾杯。但し一人はコーヒー。着いたときはヤッケを羽織ったが良く晴れて来て暖かくなり脱ぐ。粟もすっかり雲がなくなる。川内の山のオンパレード。守門と下田山塊。夫婦が先行下山、団体は山頂まで登って来なかった。
熊刈りの眺め場	1:40	晴	急傾斜を枝につかまりながら下る。袴越の全容、粟ケ岳の五百川コースの尾根が良く見える。カモシカがいるというが遠くて良く分からない。
山　の　神	2:05	〃	手前で先行下山夫婦を追い越す。上山時に沢山あったリンドウが無くなっている。
団体を追越す	2:15	〃	林道で団体を追越す。ビニール袋にカタヒラが入っていたが、？？？。また、リンドウも入っていたという。これは登山のマナー違反だ。
林道途中 P	2:25 着	〃	朝と車台数は同じで、本日の入山者は記述した者で全員である。

２万５千地形図に道は記されていない。７月に粟ケ岳を北五百川から登った時、登山口の案内看板にコースが表示されており、３時間とあった。一方、Ｔが最近向かっているが、入山口が藪になっていて、諦めて引き返したという。ネット情報では、道標があるとなっていた。出だしの数分間だけ、やや草がかぶる道であったが、それ以後は広く立派な道となっている。また、急登となっても段切り等の工作がされておらず、山道そのものでとても良い山だ。

歩き出しはやや寒かったが、山頂到着以後は良く晴れてきて、紅葉と好展望を十分楽しめた。